



第三者コメント

●三重大学理事・副学長 渡辺 悌爾



- 三重県は、従来から環境コミュニケーションについて意欲的に取り組んでこられたが、今回の環境報告書・平成18(2006)年版においては、ISO14001の認証取得の更新を経て環境マネジメントシステムの再構築・充実を図りながら、「インタビュー」や「トピックス」など一層親しみやすくするための工夫がなされ、また、内容の充実化も図られたように評価されます。
- 今年の報告書においては、三重県庁ISO14001対象組織である県庁の本庁舎や地域機関だけでなく、小児心療センターあすなろ学園、県立高校、看護大学、四日市港管理組合などISO14001の認証取得をしている関係機関の取組も紹介され、環境文化の根づく三重県づくりを目指す先駆的な役割を果たそうという萌芽を読み取ることができると思います。
- RDF貯蔵槽の不幸な事故を始め、産業廃棄物問題やフェロシルト問題など環境の安全性を脅かす諸問題について、今回の報告書は初めて正面から「社会的取組の状況」という形で責任ある言及が行われたことを評価したいと思います。それと同時に、安全性以外の社会的取組についても簡単な紹介が行われていますが、「チームマイナス6%への参加」やトピックスとして取り上げられている日本環境経営大賞など、三重県の先進的な姿勢を積極的にアピールすることも大いに望みたいと思います。
- 環境問題への積極的な取組にもかかわらず、地球環境問題や地域の環境問題の解決は未だ道遠しの観が強いように思われます。私ども三重大学の環境報告書に対する第三者評価をお願いしている立場からも、三重県には今後とも高い環境マインドに基づく環境行動の先導的役割を期待する次第です。